Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-04-28

アメリカ建築家協会・地域/都市デザイン支援チーム(R/UDAT)の活動実績と役割

渡辺, 民代
塩崎, 賢明

(Citation)
神戸大学大学院自然科学研究科紀要. B,19B:63-68

(Issue Date)
2001-03

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/E0017077

神戸大学大学院自然科学研究科紀要　19－B：63～68（2001）

アメリカ建築家協会・地域/都市デザイン支援チーム（R/UDAT）の活動実績と役割

渡辺民代*，塩崎賢明**

*神戸大学大学院　自然科学研究科　地球環境科学専攻
**神戸大学　工学部　建設学科

（2000年8月31日提出）

キーワード：アメリカ建築家協会、地域/都市デザイン支援チーム、専門家支援活動

1. はじめに

住民主体のまちづくりには専門家による支援活動が欠かせないが、アメリカでは地域・都市デザイン支援チーム（Regional/Urban Design Assistance Team, 以下 R/UDAT）とコミュニティ・デザイン・センターがその一端を担っている。

R/UDAT とは建築家の職能団体であるアメリカ建築家協会（American Institute of Architects, 以下 AIA）が運営するプログラムで、R/UDAT に登録している多分野の専門家が地域の総合計画づくり、コミュニティの経済開発などを支援するものである。基本的に、依頼のあった地域に4～5名の専門家グループ R/UDAT を派遣し、4日間という短期間で市民、行政当局、地元企業との協議を行い、最終的に R/UDAT が地域再生のための提案を行うというプログラムである。

一方、コミュニティ・デザイン・センターは、低所得者層のコミュニティに対して建築・プランニングの技術的支援を行う非営利の専門家組織である。R/UDAT が4日間の短期間の支援活動を基本としているのに対して、コミュニティ・デザイン・センターは自らが拠点をおく地域を対象にして、アフォーダブル住宅供給の促進、コミュニティの教育等の活動を継続的に行っている。

このようにアメリカには専門家支援組織として、AIA の R/UDAT とコミュニティ・デザイン・センターがあるが、本研究では前者に焦点をあて、第1に R/UDAT の1967年から1999年までの活動実績を明らかにすること、第2に R/UDAT が市民参加型の都市開発活動において果たしている役割を明らかにすることを目的とする。実例として、1988年に R/UDAT が派遣されたユタ州の Salt Lake City を取り上げて、R/UDAT が同地域にどのように貢献したのかを明らかにする。

研究の方法は、R/UDAT の活動内容とプロセスについては、既存文献（Bachelor, Lewis, 1986）を参考にしている。R/UDAT の歴史、活動内容とプロセス、7都市における R/UDAT の具体的な提案などについては、Bachelor, Lewis（1986）によって明らかにされているが、R/UDAT の活動が派遣地域に与えた影響・効果を考察したものはなく、ここに本研究の独自性がある。

2. アメリカにおける専門家支援活動の歴史的展開とR/UDATの誕生

R/UDATが誕生した1960年代後半のアメリカは、公民権運動、ベトナム反戦運動、都市暴動の頻発など大都市はいわば騒乱状態にあった。また大規模都市再開発に対する批判が高まり、黒人・マイノリティグループによる激しい抵抗運動が展開された。これを受けて、建築、都市計画の専門家は自らの専門的な技術を提供して、再開発の対象となった低所得者層コミュニティの活動を支援し、コミュニティの組織化、代替案の作成などを行った。60年代の専門家による支援活動が展開されるのに応じて、これを初めて自覚的な概念として形成し提示したのが、ポール・デイビドフである。デイビドフは、「社会もろもろの利益集団が計画過程に参加し、そこに多元主義が実現されなければならず、プランナーは諸集団による計画の作成を助け、自らも彼らの価値観を擁護し、主張していく弁護活動を実践する必要がある」と主張し、専門家が果たすべき役割をアドボカシー・プランナーとして明快にした[1]。この時期に貧困層の擁護すなわちアドボカシー・プランニングという観念が浸透する契機になったのは、都市計画家集団の内側からうまれてきた契機で、再開発ないし都市更新に対する反省であったと西尾[2]は述べている。

また全米レベルでコミュニティ・デザイン・センター運動も高まり、建築家、プランナー、建築・都市計画学科の教員、学生などが、ボランティアで低所得者層を対象にした建築・プランニングの技術的支援を行うようになった。1968年～1972年に57ものコミュニティ・デザイン・センターが設立されている[i]。

このような1960年代後半の専門家の職能意識の高まりを背景にして、1967年に誕生したのがAIAによるR/UDATである。これは1967年にサウスダコタ州のラピッド市の商工会議所長がAIAに赴き、同市が抱えていた地域の問題を相談したことに始まる。AIA内のアーバンデザイン・プランニング委員会（Urban Design and Planning Committee）との話し合いの結果、AIAは同市が費用[ii]を負担するならば、適切な経験をつんだ専門家の小グループを派遣し、行政の役人や市民に会い、報告書やコメントつきの活動計画を作成するように段取りすると提案した。AIAは2人の建築家、2人のプランナーの計4名を選定し、1967年6月にラピッド市に派遣した。専門家チームは市長と市議会メンバー、更には地元の建築家、メディア、地域のキーパーソンと公開ミーティングを開催し、様々な立場の人たちの意見を聞いた。最終日の3日目に専門家チームは地域の問題を解決するためのいくつかの提案を行った。専門家チームが滞在したのは3日間だけであったが、数週間後に詳細な提案を示した報告書を完成させ、同市に郵送した。これを受けて同市では、地域が抱えている問題について完全な公開討論を行い、その勧告を受け入れて、それに基づいた行動に移すために、実行部隊が組織された。

AIAの専門家チームの訪問が数日間であったにもかかわらず、R/UDATという外部からの支援が地域に刺激を与え、また公共の関心をひきつけるようになった。AIAのアーバンデザイン・プランニング委員会もこのプロセスの有効性を確信し、ラピッド市以外の都市にも専門家を派遣するシステムをつくろうということになった。これがR/UDATの始まりである。

3. R/UDATの活動実績とその内容

R/UDATは1967年～1999年の33年間に、133の地域に派遣されている[4]（図1）。R/UDATの派遣が始まって7年目までは派遣件数が1～4件と少ないが、8年目以降の1975年～1981年の間には、毎年7～10件のR/UDATが派遣されている。しかし80年代、90年代になるにつれて派遣件数が減少している。　今日までにAIAは全米各地の130以上の地域にR/UDATを派遣している。AIAによると400万ドルに相当する価値の専門的サービスがボランティアで行われ、全米の都市人口の10分の1以上

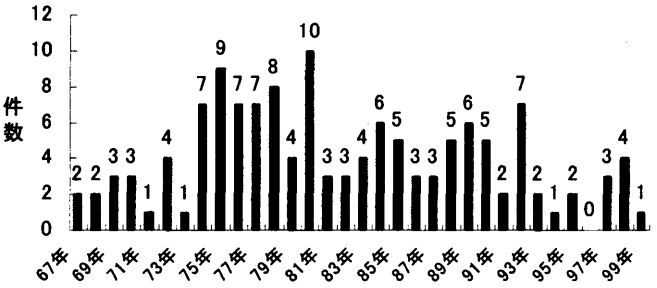

図1 R/UDAT派遣実績(1967～1999年,計133件)
List of Participants, AIA, R/UDAT, 2000をもとに筆者が作成

が恩恵を受けているとされている[3]。

テーマはコミュニティ開発が最も多く、その他にダウンタウンの活性化、都市再開発などがある。年代別に見ると、60年代では住宅・都市開発省によるモデル・シティ事業、70年代後半から80年代にかけては都市の成長管理、リンケージ政策などに焦点があてられており、その時代に応じた都市問題に対応した支援活動が行われていることがわかる。例えば、1981年のシアトル市ではレーガン政権下での事実上の補助住宅施策の停止によってダウンタウンにおけるアフォーダブル住宅供給が停滞していた状況の中、R/UDATは市当局が民間市場の住宅建設をコントロールし、適切な値段の住宅供給を促す仕組みをつくるべきであるとの提案を行っている。また1976年のバーミンガム市では、近隣レベルでの地域計画づくりを促進していくための意思決定プロセスについて検討している。そこでは住民のニーズをくみ上げる近隣組織や市当局・市議会を監視する中立的な市民組織を設立することを提案した。このようにR/UDATの活動は、住宅や都市デザインなどの物理的な事象に対する提案にとどまらず、そのプロセスを重要視していることがわかる。

表1 R/UDATに登録されている専門家（1986年）

内訳	数
建築家・アーバン・デザイナー	203名
プランナー	90名
経済の専門家	65名
交通の専門家	35名
ランドスケープ・アーキテクチャー	35名
弁護士（法定代理人）	33名
社会学の専門家	25名
デベロッパー	15名
エコロジスト・環境の専門家	13名
歴史保存の専門家	10名
公共の役人	8名
政治科学の専門家	7名
ダウンタウン・エクゼクティブ	6名
芸術家	2名
人文学者	3名
ジャーナリスト	4名
市長	2名
港の専門家	2名
エネルギー・コンサルタント	6名
施設管理者	1名
地理学者	2名
土地所有者	1名
州の下院議員	2名
合計	572名

注）Urban Design in Action , Peter Bachelor David Lewis, 1986をもとに筆者が作成

R/UDATの特徴は、建築や都市計画にとどまらず、経済、社会学、法律などを含む多分野の専門家が登録されている点である。1967年～1986年までの間にR/UDATに認定されている専門家の内訳（23種類）は表1の通りである。最も多いのは建築家・アーバン・デザイナーであり、全体の35.5%（203名）を占めている。それに続くのは、プランナー90名、経済専門家65名である。AIAによると、建築家達はR/UDATの活動の中で、経済学者、エンジニア、社会学者、歴史学者などとかかわることで、自らの使命の重要性について認識するようになったようである[5]。このようにR/UDATは多分野の専門家によって構成されているために、地域の問題について総合的な助言を与えることが可能になっているのであろう。

4. R/UDATによる専門家支援活動のプロセスと手法

地域によってR/UDATがとるプロセス・期間は異なっているが、基本的にR/UDATが要請のあった地域に派遣されるのは4日間である（図2）。しかし実際にはR/UDATが地域に派遣される数ヶ月前から下準備は開始されている。まずAIAのR/UDAT検討委員会は要請のあった地域の市当局を招き、地域の問題を理解するために、地域の歴史や背景などについて話し合う。そこにはAIAの地域支部や地元の大学の教授・学生などが参加する場合もある。そこで得られた情報を文書としてまとめ、後に派遣されるR/UDATのメンバーに手渡す。そして検討委員会は地域の問題に適切な助言を与えることが出来ると思われる多分野の専門家の選定を開始する。このようにR/UDAT派遣の前に十分な時間とエネルギーが費やされるのは、R/UDATの専門家ができるだけ地域の情報を頭に入れておくことで、4日間の短期間の訪問で効果的に活動できるようにするためである。1日目は、徒歩、バス、ボート、時にはヘリコプターなどの手段で、地域の見学が行われる。そして市当局（市長）、市議会、プランニング・ゾーニング・ボード、商工会議所、地域の銀行、コミュニティ・リーダーなどが集まって協議を開始する。2日目は、第1回目のタウン・ミーティングが開かれる。そのミーティングはあらゆる人々が参加することができるように公開形式で行われる。そこでは地域に関心をもつ市

民、近隣組織、マイノリティの代表などが集い、意見が交わされる。参加者達は意見を出し合い、自分の経験を語ることで、チームとしての理論的基礎を築き、次のワークセッションに望む。３日目は 24 時間ノンストップのワークセッションが行われる。いくつかのチームに別れ、チーム同士で意見やアイディアを交換し合い、互いに比較する。そこで出された意見を加味し、R/UDAT が地域の問題を解決するための提案をレポートとしてまとめる作業に入る。４日目の朝（夜明け）には、60～100 ページのレポートが完成し、それを印刷にかけて、参加者たちは眠りにつくのである。午後に記者会見を開いた後、夕方には第２回目のタウン・ミーティングを開き、R/UDAT が地域住民の前でスライドや完成されたレポートを用いて、プレゼンテーションを行い、最後に提案を行う。

このように R/UDAT の活動は４日間という非常に短い期間で行われるが、その有効性は認められており、しばしばの AIA の地域支部や民間の建築・都市計画事務所でも用いられている[iii]。

R/UDAT 訪問後にもフォローアップ・プログラムが用意されている。先に派遣された R/UDAT に新たに専門家が加わり、再び地域を訪問する。専門家たちは、先にまとめたレポートで提案した事象を実際どのようにして行っていくかという、今後のコミュニティの開発戦略について話し合うのである。また、新たな専門家を加え、新旧の専門家が議論を行うことによって、先の R/UDAT の提案が適切であったのかについて再評価する。

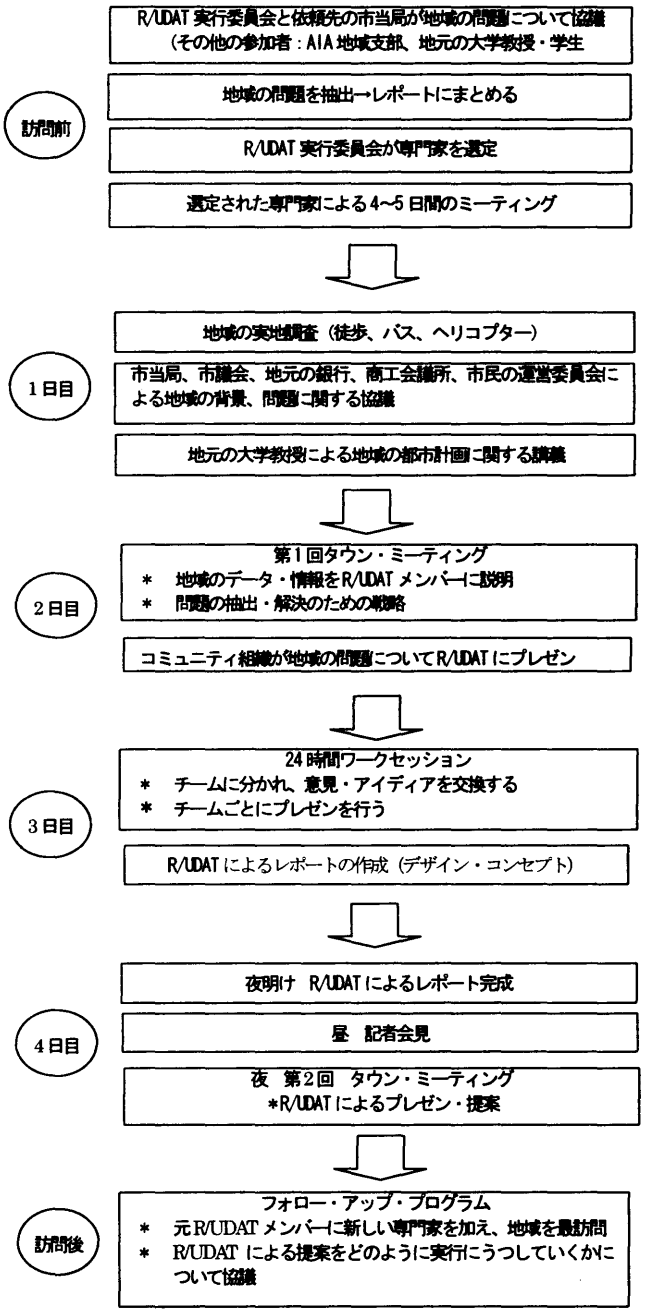

図２ R/UDAT のプロセス

注）Urban Design in Action, Peter Bachelor, David Lewis, 1986 をもとに筆者が作成

図３ R/UDAT の専門家（East Nashville, TN）1999.7
http://www.e-architects.com/pia/rudat/home2.asp

図４ コミュニティ・ミーティングの様子
http://www.e-architects.com/pia/rudat/home2.asp

5．Salt Lake City（ユタ州）における R/UDAT 派遣の効果

ユタ州の Salt Lake City に R/UDAT が派遣されたのは、1988 年である。同市はアメリカ西部に位置する人口 17 万人[6]の小都市である。1980 年代は大会議場、国際センターの建設など大規模な開発が展開されていた時期であった[7]。

1988 年に同市はダウンタウンの開発・活性化のための戦略づくりのために、R/UDAT の派遣を依頼した。4 日間に渡るタウン・ミーティング、ワークセッションを終えた後に、R/UDAT によって作成されたレポートでは、ダウンタウンの活性化のためには健全な住宅地の形成が必要であるとの提案がなされた。これは市の住宅政策に大きな影響を与え、同市はアフォーダブル住宅の供給を非営利組織の主導で進めていく方向性を打ち出した。そしてコミュニティ開発法人の設立を支援し、1990 年に CDC が誕生した。この CDC は同市に拠点をおくコミュニティ・デザイン・センターである Assist, Inc. に事務所をかまえ、初動期における支援を受けた。このように同市においては、R/UDAT の提案を市が受け入れ、それを実現するために地元のコミュニティ・デザイン・センターAssist, Inc. が大きく貢献した[8]。

また R/UDAT は同市における経済活性化のためには、住民・企業が同市の都市開発過程に積極的に参加していくことを促していくことが非常に重要であると提起した。その結果、同市では 1993 年に市の役人、企業の代表者、コミュニティの代表者などで構成される運営委員会が結成され、同市の「シティビジョン・戦略計画」を進めていく主体としての活動が開始された。Assist, Inc. によると同市において、このような市民参加型の都市開発・計画が発展したのは、R/UDAT の派遣による影響が大きいようである。市の住宅政策も R/UDAT の提案を受け入れた形で変更されており、R/UDAT は同市の住宅・都市政策とそのプロセスに多大な影響を与えたといえる[iv]。

6．まとめ

以上のことから、R/UDAT が市民参加型の都市開発活動において果たしている役割は以下の３点に集約できる。

（1） 地域の問題解決のための助言・提案

R/UDAT は地域の課題に対して、それを解決していくための戦略・方策を提案する。この提案を受けた後に、地域では実行部隊を結成し、実際のプロジェクトとして進めていくのである。R/UDAT の助言・提案は、事業を起こすための起爆剤になっていると言え、初動期の支援として非常に有効であると考えられる。

（2） 市民参加の促進

R/UDAT の採用しているプロセスは、市民参加を原則としている。市民が直接的に都市政策や市民の生活に大きな影響を与える計画の意思決定に係わることができるシステムの構築に大きな努力を払っている。このように、ただ単に物理的な地域の改善に貢献することを目的としているのではなく、地域のプランニングを民主的に変革する必要性を常に提起している点が重要である。

（3）公共・民間・市民によるパートナーシップの構築

R/UDAT は市民参加と同時に、公共、民間そして市民といった地域のあらゆる主体がプランニングの過程に参加し、協議していくことを促している。年齢、人種、所得など関係なく、ビジネスマン、市の役人、地域住民などが公開されたミーティングの場で、地域が抱えている問題やそれを解決する方策などについて議論し、コミュニティの将来像やそれを達成するための戦略などについて話し合っている。

R/UDAT は以上のような役割を果たしているが、これらはすべて実際の活動・事業をすすめる前までの支援活動である。R/UDAT の提案を実現していくための活動は、すべて地域に委ねられており、提案のみで終わってしまう恐れもある。Salt Lake City のように R/UDAT 派遣後は地元のコミュニティ・デザイン・センター、或いは AIA の地域支部などが中心となり、R/UDAT による提案を実行に移していけるような仕組みを整えていくことが必要である。

参考文献

- 渡辺民代、神戸大学大学院　自然科学研究科　修士論文「アメリカのコミュニティ・デザイン・センターの役割と有効性に関する研究　-プラット・インスティテュート環境開発センターを事例として－」2000年3月
- 西尾勝、権力と参加－現代アメリカの都市行政、1975、東京大学出版会
- 平山洋介、コミュニティ・ベースト・ハウジング、1993年、ドメス出版
- Peter Bachelor, David Lewis ,Urban Design in Action－The history, theory and development of the American Institute Architects' Regional/Urban Design Assistance Team (R/UDAT)Program, ,1986, United States of America by the Student Publication of the School of Design at North Carolina, in cooperation with the AIA
- Russell Weeks, SALT LAKE CITY COUNCIL STAFF REPORT －SUBJECT: Creation of a City-wide Business Board, October 7, 1999, Salt Lake City Council

引用文献

(1) Paul Davidoff, Advocacy Planning and Pluralism in Planning" Journal of the American Institute of Planners, Vol.31, No.4, 1965

(2) 西尾勝、権力と参加－現代アメリカの都市行政、1975、東京大学出版会、p124

(3) Peter Bachelor, David Lewis, Urban Design in Action - The history, theory and development of the American Institute Architects' Regional/Urban Design Assistance Team(R/UDAT) Program, 1986, United States of America by the Student Publication of the School of Design at North Carolina, in cooperation with the AIA, p18

(4) List of Participants, AIA, R/UDAT, 2000 (http://www.e-architect.com/pia/rudat/rudatlist.asp)
2000 年時点で進行中のものが 2 件ある（Buffalo, NY と Kingsman, AR）

(5) Urban Design in Action, p15

(6) Communication & Information Resource Center estimate, July 1,1997, Salt Lake City

(7) Salt Lake City History, 2000, Salt Lake City

(8) Assist, Inc., Association for Community Design, 2000 (http://www.communitydesign.org/SaltLkC.html)

脚注

i 筆者が 2000 年に 7 月に行った調査によると、全米には 33 の州に 50 のコミュニティ・デザイン・センターが存在している。

ii R/UDAT の派遣に要する費用はおよそ 2 万ドル～2．5 万ドルである(Urban Design in Action , P20)

iii AIA のサンフランシスコ支部ではサンフランシスコの Kearny ストリートやオハイオ州コロンバスの North マーケット・プロジェクトなどで用いられた。(Urban Design in Action, p65)

iv 同市はこの R/UDAT の提案を正式に採用したわけではないと明言しているが、R/UDAT のレポートは市民からの大きな支持を集めたようである。(SALT LAKE CITY COUNCIL STAFF REPORT－SUBJECT: Creation of a City-wide Business Board, October 7, 1999, Salt Lake City)